

### 第3回 アスリート・観客にやさしい道の検討会 議事概要

【日時】 平成28年7月19日（火） 9:00～10:00

【場所】 中央合同庁舎3号館11階特別会議室

【出席者】

屋井鉄雄座長、尾縣貢委員、神田昌幸委員、瀬古利彦委員、西倉鉄也委員、平田竹男委員、結城和香子委員、

【議題】

- ・路面温度上昇抑制機能を有する舗装技術の効果確認について
- ・取組みの方向性（骨子案）について

【議事概要】

舗装の効果検証について

（WBGT体感温度）

- ・舗装間では、路面温度には差があるのに、WBGTは有意な差にならない理由を分析すべき。
- ・路上を走る場合には、湿度の影響が大きい。走る人の頭の部分である150cmの高さで、舗装の種類別に散水前後の湿度の変化を把握した情報はるか。
- ・WBGTという加工したデータに加え、気象等の基礎データの変化も提供すると理解が進む。
- ・国道246号の観測場所は歩道の車道寄りで、WBGTに有意な差がないとすると歩道では車道の環境舗装の効果はないことが分かった。供用している車道で計測が難しければ、関東技術事務所のフィールドで実際に計測するとよい。
- ・現地効果検証における実感と、計測データを比較してみる必要もある。

（散水）

- ・マラソンコースに10mm散水するというのは大変な量になるが、可能なのか。
- ・世界陸連では散水について規制はないが、ヨーロッパで開催された世界陸上等では日本ほど夏の暑さが厳しくないのに、レース前に散水した例はない。しかし、東京ではある程度必要である。
- ・「継続的に散水ができる地区」は、どのような地区を想定しているのか。
- ・当日の気温や湿度を踏まえ、どのような条件でなら散水すべきか、数値的に対応を検討しておくとい。
- ・遮熱性舗装を採用した場合に、全く水をまかないと考えるのか、水をまいて効果をさらに発現させると考えるのか。

（舗装種別の選択）

- ・東京都では遮熱性舗装が望ましいと考えている。都道約2,000kmのうち、交通量の少ない区間の20kmを保水性舗装にしている。それ以外は、交通量が多いため騒音

の低減効果の高い排水性舗装（低騒音舗装）を採用しており、遮熱性舗装は排水性舗装に遮熱材を塗布するので、大会直前に塗布すれば効果が高いという点でも、道路管理者として望ましい方向である。

- ・保水性舗装データは平坦な場所で計測したと思うが、傾斜地でも保水機能が発揮されるのか。

#### 緑陰形成について

- ・緑陰、街路樹は歩道の方に効果があると考えられるが、データに基づいて提言できるとよい。
- ・沿道観客の暑さ対策として、道路のみならず周辺を合わせた一つの取組みとしての方向性が必要である。
- ・樹種を変えることは今回間に合わないので、強剪定をやめる方法で対応するのだろうが、街路樹の下に灌木があると、緑陰が形成されていても歩行者が入っていけないため、灌木を切って、グランドカバーにするか、入っていけるようにするとよい。
- ・東京都では、街路樹の木陰は、非常に効果が高いと考え、目標樹形を定めて剪定手法を検討することとしており、今年度競技会場周辺の道路で基礎調査を行う。
- ・マラソンが早朝に開催される場合は、東から日が指す。東側からの緑陰の効果が見込まれる区間では、数年前から剪定における対応を検討すべき。

#### その他

##### （ミスト設置）

- ・ミストはなるべく多く設置した方が選手は楽である。
- ・東京都ではミストは道路附属物ではないので設置を考えていない。民間から申請があれば占用許可をする方向である。また、環境局では民間事業者によるドライミストの設置に対する補助制度を有している。

##### （情報提供）

- ・オリンピック・パラリンピックは路上で様々な競技が行われ、他の時間帯には観客も路上に出る場合がある。熱中症対策として、体感温度を含めた自己管理できる情報を提供して対策を採ることが重要である。
- ・大会期間中、道路上がどういう状態か、ミクロな観点でリアルタイムに情報提供することが重要である。

以上